

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第100号 (2023. 1. 15-2023. 1. 22)

◆ 参加者: 宮坂葵哲、しまねこくん、抹茶金魚、はかなし、片羽 pep、雲雀、屑乃ハコ、SUSA、流天、蜜、うめたかな、風ちひろ、西脇祥貴、しま・しましま、たろりずむ、桔梗葉、輪井ゆう、とるぼとる、元さん、菊池洋勝、天やん、ROB、海馬、しろとも、ヨダレウルフコマソン(仮)、みさきゆう、おかもとかも、石原とつき、森内詩紋、西沢葉火、花野玖、Ru'san、さー、徳道かつみ、ともなう、日下吳秋鹿町、藤井皐、汐田大輝、梓川葉、さくら、小沢史、財前、ひとり遊び、山田真佐明、雪上牡丹餅、まよひま、馬勝、せば、野々原蝶子、一福千遥、東ころ、日月星香、りさ、蔭一郎、まつりべきん、水の眠り、雷(らじ)、hyuntoppa、何となく短歌、えふえ、電車侍、碧乃そら、すずめ、かのん、休也一絵と短歌、金瀬達雄、とわさき芽ぐみ、涼閑、夜間戦闘、白石ボビー、石川聡、ゆりのはなこ、タダノナイコ、ちゅんすけ、Kaori、井本和彰、人見式一、岡村知昭、高良俊礼、星野響、紺野水辺、あ、みんみん、雲心、みや、水也、べ、須能がる→、水須ゆき子、鴨川ねぎ、太代祐一、むくみんママ、木野清瀬、ほたる、しみずわかな、岩瀬百、浜本亜矢子、hikisuzu、つきはら、しろくまきりん、おとないやいやえん、新出既出20、譜真無子、かきもちり、カズノ pat、月波与生(二〇七名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

糸は糸らしく正月に住む 千春
ぎみあきゅー鳴く夜明け前ぎみあきゅー 岩瀬百
宛て先が書いてあるけどホツカイロ しまねこくん
呼吸からはヘヴィメタルを検出し おかもとかも
エレベーターにもつれた声を吐かせたい 海馬
小正月お気に入りから非表示に 木野清瀬

お願いがあります陸から座藁らしく抜いて 藤井卓
蓮根の穴に詰め込まれる躰 秋鹿町
膝ついて転んでしまった日のソナタ しろとも
よその子に soup と名付けられた石 おかもとも
君のくしゃみで流れ星 紺野水辺
冬の星グリッサンドでかきまぜる 星野響
乱読の末路に芥子の花を見ず 高良俊礼
親不孝通りの犀を尾行する 岡村知昭
茶の花やとある句会は百回に 井本和彰
血管を泳ぐ身と成る寒の鯉 syusyu
焼きたてのアンデパンダンくださいな 西沢葉火
シンデレラゾーンを前線がとおる Ryu sen
どこまでもスクロールして春の野や 抹茶金魚
海からの小瓶のように知る手紙 さー
目玉と鼻の手触りや福笑 菊池洋勝
国富論(はらぺこあおむしによる) 海馬
チューリップの対義語はブーヒップ たろりずむ
雨傘が売れる人類滅亡後 たろりずむ
平家物語を逆から読んでいく戸籍 雷(らい)
私以外を生きる私が涙だす目のごみ 雷(らい)
ローンクと私が黙っていれば済む まつりぺきん
新雪に押忍がたくさん落ちている おかもとも
掌に乗る大きさの滝凍る しまねこくん
生まれては消えるエロ垢冬銀河 馬勝
立ち上がって真昼 パクチーの不遜 秋鹿町
シマウマの鍋が名物 徳道かづみ
廻らない猿の周りに月が出る しまねこくん
チャンバラに折られるためのモノサシか 輪井ゆう
なまはげがちやんとスリッパ履いてをり しまねこくん
セーターの胸の丸みや五時間目 雲心
枯葦やジャンセンの裸婦立てる膝 雲心

三日月の指輪を買って冬の恋 東こころ

近頃は人參も優しくなった 宮坂愛哲

背水の、愛してゐるって言わない決意 片羽雲雀

梅下にも生命みなぎる冬苺 屑乃ハコ

うつせみのやがて吞まれて波のなか 流天

サクラサクきみのほっぺにもサクラサク 蜜

水面に浮いた落ち葉が波紋の元 桔梗堇

初春や写真立ての笑む子に膳 天やん

欠けたもの拾い集めて春近し rira

冬探しながら歩きで路迷い ヨダレウルフコマンソ

よってたかつて駅をかくすとは象だった 石原とつき、

碧石の凸凹撫づる久女の忌 花野玖

ご機嫌な歯ぐきも見せてトイピアノ Ryu sen

一瞬の死を味わうための深呼吸 徳道かづみ

蟠り捨てる工夫を捨ててみる ともなり

新雪にシロップかけ回す七日目 日下吳

初春の月と思えば明石焼 汐田大輝

お隣で眠る貴方に夢で会う 梓川葉

寒がはり繊維多めの黒マスクラ 小沢史

終電を逃して駅で緑茶ハイ 財前

大寒に 星は煌めき 透き通る ひとり遊び

ふりかえるとき岬はいつも美しい しま・しましま

暗がりの部屋に一葉寒見舞 山田真佐明

Justice が世に響くまで叫びます 雪上牡丹餅

今はまだ戦争してる。どんど焼 M&A&H

腐っても鯨であることの事実 せげ

大寒日安静必須ブチ手術 日月星香

くすり飲みたばこを吸ってさらだ喰う 蔭一郎

シャコタンの箱乗り娘風になる 水の眠り

大寒の朝しんと落つブレーカー hyutoppa

早番は家も会社も雪を掻く SYUSYU

午後の陽も 温くなりしや 寒の鯉 電車侍

ゆつくりと歩く石路も綿毛 せば

大寒や 吾子の未読が 気にかかる かのん

いつまでも闇に慣れない目をしてる しま・しましま

無精卵は有精卵の無事祈る 金瀬達雄

ひんやりと胸内濡らす夜半の雨 涼閑

白く濁るため息浴びる夜更ける 白石ポピー

冬だからさみしい夜が増えるんです 梓川葉

デジタル化遅れた私紙ってる ゆりのはなこ

幸せとツイート逆剥けが増える ちゅんすけ

鈴蘭やドライブ好きになる魔法 人見式一

好かれては散財の末にごり水 ともなう

肩すくめ あんまんの肌しばし撫で SEN

阪神忌荒ぶる自然の畏れ知り みんみん

消し忘れも私の部屋には無い灯り べ

別れの数だけピアス開ける 須能がる一

今時は辞表を伝書鳩で出す 鴨川ねぎ

スマートフォンに米粒を遣る 太代祐一

括ってはいけない支援障害児 ほたる

彼女をください ミルクテイー

ほっとするほうを玉子でとじてみる 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

右側の前から二十五番目の足が前世で言う利き手です
たろりずむ

友達と「く」だけで会話するノリがあつて「く」だけの賀
状が届く たろりずむ

ふゆふくは乾きづらいね縁側はあつたかいねと猫語で話す
タダノナイコ

下書きで終わったように飲み込んだあなたの息の花束くだ
さい とわさき芽ぐみ

薄氷ダダンと踏んで冬の蜘蛛欠片は刃 団地切り取る 夜
間戦闘

ペンギンに歌を聴かせるウクレレはパイナップルになる夢
をみる みさきゆう

銀行に飾ってあったミニチュアのこたつでお茶によばれて
みたい 凧ちひろ

本日のホモ・サピエンス・サピエンス感染数を告げるウイ
ルス たろりずむ

切なさを前の景色と比べたら吹き飛んだみたいマクドナル
ドへ うめたかな

ひまわりのまどかなひかりポケットに入っていたのひなた
のデニム とわさき芽ぐみ

梅一つ奇跡のように咲いていて体感温度二度上がる朝 さ
ら

雲間から君をみている泣き虫でやさしい君をカレー食べつ
つ はかなし

大人びた横顔見せる姪っ子の頼んだネタは子供のままで
とるぼとる

空にみるポツリポツリの星たちは優しさ触れた足跡みたい
元さん

びょうびょうとかぜ しんしんとゆき おやみなきまま
今日の久女の忌はも 森内詩紋

「すべて消去」「やる気スイッチ」手探りで身体まさぐる大
寒の朝 何となく短歌

心からおめでとうって言ったじゃん よくはないから押さ
ないいいね えふえ

背が低いと言われて啜り泣く吾子の抱きしめる重さ、大き
くなつたよ 碧乃そら

被害者意識をくらってますだからやられて発熱してて一人
すずめ

1月の水柱のひかり 昼の星溶けとろかされ 春よこいこ
い 休也

心から血を流しつつ微笑んで言う「大丈夫」言霊になる

Kaorin

片意地を張る片田舎の片隅に、春の日を待つ堇のように

森内詩紋

言葉では共感しても試合では連携できず仲間と言い張る
すずめ

もうないよ いないんだよと言えないよまだここにいる声
が聞こえる 水也

父親の電源ボタンを探す子に契約終了なのよと話す ぽつ

ぼ

今頃になり、あの人の心が分かり泣いている むくみんマ
マ

木枯らしを告ぐを聞きたる一回り小さき鍋を求め帰りぬ

しみず わかな

こんなにもさみしい夜に星じゃなく空でもなくて「私」だ
なんて しろとも

ボクシングやらないだろうかつちゃんはたつちゃんがもし

先に死んでも たろりずむ

◆ 詩

hi.gurashi さん

hi.gurashi さんの作品が

作品評の所に

私のツイートと一緒に

載りましたよ (さくら)

有名な人が死んだことを告げるニュースを見て、
あなたが「誰か人が死ぬのは悲しい」言い、
あなたの言う「人」の中に、
私も含めてもらえることがとても嬉しいことを、
片思い、というのだろう、
私に何の才能もないことが、
何よりもこの世への復讐だと思いました、
花、といえはこの世の全ての花をさすけれど、
たった一輪のあの花を呼びたいとき、
花には人間のように名前がなかった、
そんなふうにして私は、
あなたの名前を呼びたかった、(野々原 蝶子)

片耳しか使えぬ

イヤホンを

星ひとつ

またたかぬ夜に

ふと差し出して (一福千遥)

やばい

寂しい

何コレ

どしよ

ほんと

寂しい(りさ)

◆作品評から

うつせみのやがて呑まれて波のなか 流天

〜本当にそう感じる時は、あります。(浜本亜矢子)

大人びた横顔見せる姪っ子の頼んだネタは子供のままで
とるばどーる

〜たまごかなあ。(miki:suzu)

欠けたもの拾い集めて春近し rira

〜まだ完全とは言えないが、一区切りつけてと解釈しま
した(つきはら)

〜集めたらお花畑になるニヤン(しろくまきりん)

窓に住むさかなの指は五角形 秋鹿町

〜「ありえないもの」を書いている。この生き物はまっ
たくの嘘、何かの例え話なのか？そうではなく言葉にした
瞬間すべては正しく「そこにある」ことになるのだ。(月波
与生)

早番は家も会社も雪を掻く syusyu

〜雪国に転勤した人が、毎朝出社前に一時間かけて家の
周りを雪掻きし、出社後一時間かけて会社の雪掻きをした、
という話を思い出した。そして早朝に住人の通勤通学のた
めに道の雪掻きをしている人々がおられることも、句の向
こう側に感じた。(おとないやいやえん)

雨傘が売れる人類滅亡後 たろりずむ

〜ああ、静かな中で孤独じゃないことを確認できた喜び
を感じながら、その状況の滑稽さに自分で自分を笑ってい
るような哀愁。素敵な句ですね。(まつりへきん)

半角のアスタリスクのニュアンスで片方だけのルビーのピ
アス みさきゆう

〜「半角のアスタリスクのニュアンスで」の切り取り方
ががすごくいい。半角↓片方の連絡も効いている。着地が

ピアスでよかったかどうか。(月波与生)

ローソクと私が黙っていれば済む まつりぺきん

↳誕生日なのに家族の雰囲気が悪くなったとき。

新しい仏壇写真に線香を添えるとき。

縄で縛られて終わりを待っているとき。

余命を知っているのが自分だけのとき。

なんのローソクかな、と想像したら色々広がっていきました。どのシーンでも鬱屈とした理不尽さが漂うのが素敵です。(きー)

こんなにもさみしい夜に星じゃなく空でもなくて「私」だなんて しろとも

↳好きです。(新出既出20)

近頃は人参も優しくなった 宮坂愛哲

↳お早うございます。日向臭いトマトも。(諧 真無字)

実名で報道された鎌鼬 馬勝

↳「鎌鼬」が実名なのか。最近はや号の手紙ばかり増えてひがんだ実名はアルバイトを始めた。実名には朗らかであってほしい。(月波与生)

ボクシングやらないだろうかつちゃんはたつちゃんかもし

先に死んでも たろりずむ

↳めちやくちや頷いてしまいました笑(かきもちり)

私以外を生きる私が涙だす目のごみ 雷(らい)

↳心のどこかで、私以外を生きる私を認めたくない、と思っている私があります。それを確かめるような、強がりのような。その涙の本当の意味を知っているのも、やっぱり

私なんでしょうね。素敵な句だなあと思いました。(まつり
ぺきん)

読みたくて読みきれなかった本たちが 集う宇宙があるか
もしれない ふら

〜買うかどうか迷ってるうちに書店から消えてしまう本
たちもきつとどこかに集っているのだらう。読む本は有限
だが読めなかった本は無限だ。(月波与生)

ホンモノの寝言は空気より軽い おかもとも

〜空気より重いか軽いかでホンモノかニセモノかがわか
る寝言。だから何だといわれようがその辺をはつきりさせ
ておきたいのである。(月波与生)

シヤコタンの箱乗り娘風になる 水の眠り

〜ブルーバード、懐かしいです (とるぼとる)

くすり飲みたばこを吸ってさらだ喰う 蔭一郎

〜くすり、たばこ、さらだ。どれにも一定の価値を感じ
て自ら摂取しているのに、どことなく投げやりな自分のこ
ととは捉えていなそうな感じが好きです。

矛盾があつたとしても体の心の健康をとりあえず保ち、叶
えたいもつと重視していることが他にあるようにも詠めて
好きです。(タダノナイコ)

ほつとするほうを玉子でとじてみる 月波与生

〜この句好きです。玉子でとじたら、ふつくら感とか増
すのかなあ…… (森内詩紋)

地味グループの男子の私服が地味ながらに加瀬亮の部屋着
っぽくて良かった たろりずむ

↳ 「地味グループの男子の私服」を「加瀬亮の部屋着っぽい」と微妙に評しながら「良かった」で締める。肯定感があふれて気持ちいい。(月波与生)

食。パンとシヨ。パンは似てる白の比率 層乃ハコ

↳ 「食。パンとシヨ。パン」は語感が似てなくもないが「白の比率」に意表をつかれる。シヨ。パンにとつての白の比率とは何だろう。言葉が立ち上がる。(月波与生)

三日月の指輪を買って冬の恋 東こころ

↳ ストレートだけどうまい。(カズノ pub.)